

***昭和6年頃の東京天文台絵葉書の別売りの1枚について**

アーカイブ室新聞490号に昭和6年頃の東京天文台の絵葉書第3集～第5集を紹介した。昭和6年と云えば、太陽塔望遠鏡、65cm赤道儀望遠鏡が完成して間もないころで、東京天文台の絵葉書が売られるには絶好のチャンスであったと思われる。これ等の絵葉書は4枚組で8銭で日本天文学会が頒布した。この絵葉書セットとは別に東京天文台の航空写真(写真1)が1枚2銭で発売されている。この写真は筆者の60m鉄塔探索のアーカイブ室新聞の記事に何度か登場したはずである。



写真1 昭和初期の東京天文台航空写真の絵葉書

東京天文台の昔の事を研究しているものにとってはたくさんの情報を含んでいる。主な建物としては、

- 1) 重厚で見事な本館
- 2) 65cm赤道儀(ツァイス)ドーム、20cm赤道儀(ツァイス)ドーム、20cm天体写真儀(ブラッシャー)、卯酉儀室
- 3) 太陽塔望遠鏡(ツァイス)ドーム
- 4) ゴーチエ子午環室(及び南北子午線標室)、レプソルド子午儀室
- 5) 太陽分光写真儀室(オバケ)
- 6) 三鷹国際報時所、4基の報時受信60m鉄塔

7) 基線尺基線、基線尺比較室

8) 時計室、倉庫などなど

9) 地震研究所三鷹支所

が見られる。

筆者がここで特筆したことがある。それは20cm赤道儀ドームの南東に見える四角なこんもりとした森である。これは現在では670年頃の下方上円墳として全国に5基しかないと言われている珍しい古墳である。この古墳は昭和46年以降の三鷹市の4次にわたる発掘調査でこれ等の事実が判明したのであるが、この写真で見ても、すでにこの古墳は下部が四角であった認識があったように四角な森として写っているではないか？

また、南から太陽塔望遠鏡、65cm赤道儀望遠鏡、卯酉儀が南北に一直線に並んでいることが分かる。そして昭和初期にドイツから第1次世界大戦の賠償金の物納として納められたと言われている1) 65cm赤道儀望遠鏡、2) 太陽塔望遠鏡、3) 20cm赤道儀望遠鏡、4) 20cm彗星搜索鏡のうち、1)～3)は専用のドームに設置されているが、20cm彗星搜索鏡のドームがない。筆者の調査でこの望遠鏡は一時卯酉儀室に設置されていたことはアーカイブ室新聞(2009年2月13日第133号)に「20cm彗星搜索鏡は彗星を発見していた」という記事の中で書いた。この彗星搜索鏡が何時まで卯酉儀室にあったかは定かでないが、後にグランド西側にコメットシーカーという望遠鏡が置かれていたものがそうだとされている。

現在の道路からでは分かりにくいですが、ゴーチエ子午環とレプソルド子午儀が東西に並んで設置されていたことも分かる。当時は南北、東西に道路がきちんと設置されていたことも分かる。この東西の延長線のわずかに南側に南端の60m鉄塔が写っているのが見える。この60m鉄塔の探索は終えたつもりでいたが、またぞろ調査の虫が動き出した。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp